

- ・児童生徒の目標となるとともに、匠の技を国内外へPRできる全国トップ・世界レベルの若年技能者を育成する。

（３）県負担・補助率の考え方

国（1/2）、県（1/2）【地域未来交付金充当予定】

（４）類似事業の有無

無し

３ 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
報償費	360	高校生と熟練技能者（講師）との交流・技術指導に係る報償費
旅費	158	講師費用弁償、業務旅費
需用費	1,703	高校生と熟練技能者との交流・技術指導に係る材料費
役務費	283	高校生と熟練技能者との交流・技術指導に係る保険料
通信運搬費	1	
委託料	6,779	小中学校訪問啓発業務4,593、トップレベル技能者育成業務2,186
使用料	50	高校生と熟練技能者との交流・技術指導に係る運搬車両の借上
合計	9,334	

決定額の考え方

４ 参 考 事 項

（１）各種計画での位置づけ

第４次教育振興基本計画 施策Ⅱ１０ 科学技術・情報技術やものづくりへの関心の醸成、起業家精神等の育成

（２）国・他県の状況

国は「若年技能者人材育成支援等事業」（県職業能力開発協会が国から直接受託）として若年技能者の育成・技能向上に取り組むが、全国的視野の（地元・地域産業への就職促進を前提としない）事業であり、県内の若者を育てて都市部へ供出する側面がある。このため、県独自に、若者の地域定着に向けた事業を実施する必要があると、愛知県や静岡県で同種の事業（児童生徒への啓発、トップレベル技能者の育成支援）が行われている。

（３）後年度の財政負担

第４次県教育振興基本計画の最終年度である令和10年度まで実施する。

（４）事業主体及びその妥当性

製造業へ就職する県内高校生の約４割が県外企業へ就職する現状を踏まえ、県が主体となって若年技能者の育成と県内就職を促進する。

事業評価調査書（県単独補助金除く）

■ 新規要求事業

□ 継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

熟練技能者による小中学生を対象とした訪問啓発、高校生との交流・技術指導の満足度95%以上を達成し、県内ものづくり産業やブランドへの帰属意識を高める。

また、全国トップレベル・世界レベル技能者の育成に関する指標として、技能五輪全国大会銀賞以上入賞者2名以上を目指す(R9年度大会金賞入賞者は、R10年に愛知県で開催される世界大会出場選手の候補となる)。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R)	R5年度 実績	R6年度 目標	R7年度 目標	終期目標 (R10)	達成率
①児童生徒向け啓発・交流事業の満足度					小中95% 高校95%	
②技能五輪銀賞以上入賞者					金1 銀1以上	

○指標を設定することができない場合の理由

（これまでの取組内容と成果）

令和4年度	
令和5年度	指標① 目標： ____ 実績： ____ 達成率： ____ %
令和6年度	指標① 目標： ____ 実績： ____ 達成率： ____ %

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断)

3 : 増加している 2 : 横ばい 1 : 減少している 0 : ほとんどない

(評価)

・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか)

3 : 期待以上の成果あり
2 : 期待どおりの成果あり
1 : 期待どおりの成果が得られていない
0 : ほとんど成果が得られていない

(評価)

・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか)

2 : 上がっている 1 : 横ばい 0 : 下がっている

(評価)

(今後の課題)

・事業が直面する課題や改善が必要な事項

・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか

組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課	若年技術者創出・育成支援事業費【労働雇用課】
組み合わせて実施する理由 や期待する効果 など	学校や公共施設ではできない高度な技術体験を、上記事業費を活用して国際たくみアカデミーで実施。アカデミーから遠い地域を含めた県全体を対象とした技能振興啓発を本事業で実施し、相互に補完して効果を高める。